

News Release

2010年03月19日

ディーリンクジャパン株式会社

IPv4 アドレス枯渇へ対応したIPv6/IPv4 トランスレータ ソリューション 「DFL-1660/IT」販売開始のお知らせ

ディーリンクジャパン株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長:廖 晋新(マーティ・リャオ)、以下:
D-Link)は、IPv4アドレスの枯渇問題に対応したIPv6/IPv4 トランスレータソリューションとして「DFL-1600/IT(*1)」
の後継製品「DFL-1660/IT」を3月下旬からパートナー各社を通じて販売開始いたします。

2010年代初頭にもIPv4 アドレス在庫の枯渇が予測される中、企業ネットワークでのIPv6 への対応が急務な課
題となっています。D-LinkではIPv6/IPv4トランスレータ「TTBシリーズ」で豊富な実績を誇る横河電気(本社:東京
都武蔵野市 代表取締役社長:海堀 周造)と、DFL-1600/IT(*1)の後継製品 IPv6/IPv4トランスレータ
DFL-1660/IT及びDFL-2560/IT(*2)の共同開発を行い、IPv6 環境へシームレスに移行できるソリューションを提
供します。DFL-1660/ITの標準価格は下記の通りとなります。



DFL-1660/IT (標準価格: ¥998,000)



DFL-2560/IT (*2 リリース予定製品)

DFL-1660/ITはIPv6 アドレスとIPv4 アドレス間をシームレスにつなぐIPv6/IPv4 トランスレータです。IPv4 アドレス
とIPv6 アドレスが混在しているネットワーク環境においても、DFL-1660/ITを設置することで、既存IPv4 ネットワー
ク機器やサーバなどのIPv4 資産をIPv6 ネットワークからも利用する事が可能となり、企業のIPv4 資産を有効に活
用することができます。

DFL-1660/ITはDNS-ALGを実装しており、IPv4 やIPv6 クライアントからのDNS Queryを自動的に変換します。またDNSサーバの応答に応じて、自動的にIPv6⇔IPv4 変換テーブルを作成するため、PCクライアントは接続先のサーバがIPv4 であるか、IPv6 であるかを意識する事なく、IPv6/IPv4 サーバにアクセスする事ができます。

冗長性・拡張性ともに優れたDFL-1660/IT、DFL-2560/IT(*2)は、トラフィックを効果的に分散する負荷分散機能を搭載しています。ネットワーク環境に応じて並列にトランスレータを追加することができ、処理能力を段階的に拡張することができます。更にDFL-1660/ITよりも高いパフォーマンスを発揮するDFL-2560/IT(*2)には二重化冗長機能が実装されており、クリティカルな場所でも安定的な運用を行うことができます。

【D-Link 社について】

世界 68 ヶ国、166 拠点を有するグローバルネットワークベンダーであるD-Link は 20 年の歴史を持ち、エントリーレベルからハイエンドまでのスイッチ、ワイヤレスLAN 製品群、メディアコンバーター、IP カメラ、ネットワークセキュリティ等、ネットワークの全分野を網羅する総合ネットワークソリューションを提供しています。D-Link はこれらの製品を”統合”させることを理念とし、現在はセキュリティと “グリーンIT”に注力しています。日本ではOEM 事業を展開した後、2005 年 7 月に現日本法人を設立、自社ブランドメーカーとして、D-Link 製品の国内への浸透を図っています。

(*1) DFL-1600/ITはDFL-1660/ITの販売開始をもって、販売終了となります。

(*2) DFL-2560/ITはリリース予定製品です。